「佐賀さいこう！企画甲子園」のプレゼンテーマ（例）

以下は，テーマの例となります。鹿児島県と佐賀県の魅力を発掘・再発見するような企画であれば何でも結構です。

１　食に関すること

①　両県の農畜産物，特産品等を徹底比較

佐賀県がブランド化している農畜産物（嬉野茶，佐賀ほのか等）や水産物（呼子のイカ，佐賀海苔等），特産品（日本酒等）や工芸品（伊万里・有田焼等）と比較し，特に，佐賀県の生産高，売上高等が優れている物品にクローズアップし，優れている理由に迫る。
【参考】佐賀県の全国１位：板海苔収穫量，ハウスみかん収穫量

②　鹿児島県と佐賀県のお茶の魅力

鹿児島県は知覧茶，佐賀県は嬉野茶，ともに有名なお茶どころ。お茶の生産面，消費面などの現状や課題等を調査し，両県が協力して，お茶の魅力を伝える企画を提案します。

③　鹿児島県・佐賀県産ブランド果物をもっと世間に広めるためには？

鹿児島・佐賀県産果物の調査紹介をし，コラボ商品を提案します。
（例：いちごさん・にじゅうまるを使ったしろくま，ピタヤ（ドラゴンフルーツ）を使ったアイス開発など）

④　佐賀県と鹿児島県のＢ級グルメ比較，新たなアレンジ

鹿児島県のＢ級グルメとは？佐賀県のＢ級グルメとは？両県のＢ級グルメを調べて，比較してみよう。そして，新たなアレンジメニューの開発も。

⑤　日本遺産「長崎街道～シュガーロード～」

〇江戸時代に，長崎の出島に陸揚げされた砂糖が長崎街道（佐賀～小倉）を通って京都，大阪，江戸へと運ばれたとされている。このため，街道沿道では砂糖だけでなく，菓子作りの技法などが入手しやすかったとされ，佐賀では丸芳露，小城羊羹といった銘菓が生まれた。平成 27 年には，「砂糖文化を広めた長崎街道～シュガーロード～」として文化庁から日本遺産の認定を受けた。
〇鹿児島のお菓子の歴史と比較したり，食べ比べをしたりして，佐賀銘菓の魅力に迫る。

２　スポーツに関すること

①　佐賀県高校生スポーツの強さの秘密

〇佐賀県の高校には九州，全国でも活躍するスポーツ強豪校がある。例えば，男子新体操の神埼清明高校，駅伝の鳥栖工業高校・白石高校，ラグビーの佐賀工業高校，また，2007 年には夏の甲子園決勝で佐賀北高校が公立高校ながら見事優勝を果たしている。公立高校で強豪校であることも魅力的である。
〇佐賀県の高校生数は鹿児島県の半数程度にもかかわらず，鹿児島より強いスポーツが多いのはなぜか。

②　スポーツツーリズムの実現と地域活性化

鹿児島・佐賀で行われている大規模スポーツイベントはどのようなものがあるか。また，鹿児島・佐賀に適したスポーツとは何か。
スポーツツーリズム実現のための施策を提案する。

３　歴史に関すること

①　西洋化への佐賀藩の歩みと直正に学ぶリーダーシップ論について

〇幕末，鎖国中のなか，佐賀藩はいかにして西洋化を推し進めたのか。
〇西洋化に至る薩摩藩主：島津斉彬と佐賀藩：鍋島直正の関係について。
〇直正は若干１７歳で藩主になり，後に名君とよばれるようになった。直正に学ぶリーダーシップ論について考察し，現代への活用方法を提案する。

②　数々の日本初を生み出した佐賀

〇佐賀は日本の稲作の起源とされ，日本の陶磁器発祥の地でもある。佐賀藩 10 代藩主，鍋島直正がつくらせた実用反射炉も日本初。島津斉彬が「西欧人も人なり，佐賀人も人なり，薩摩人も同じく人なり。退屈せず倍々研究すべし。」と佐賀藩の反射炉を手本にして藩士を励ましたことは有名。
〇なぜ，佐賀は数々の日本初を生み出すことができたか？　『葉隠』や佐賀の県民性との関係は？

③　現代版「鍋島藩」・「島津藩」プロジェクト

鍋島藩第 10 代藩主直正公と島津藩第 11 代藩主斉彬公は従兄弟の関係にあり，共に明治維新の陰の立役者とされる。また，地方に興った武将で，徳川初期から幕末まで同じ国を支配し続けたのは九州では鍋島藩と島津藩だけであり，歴史的なつながりが強い両藩である。この両藩の関係を現代に具現化するため，両県高校生による「●●プロジェクト」を考案した。
（例えば，生徒会活動の交流，学校で製作した商品（製作方法）の交流等）

４　その他

①　鹿児島県民から見た佐賀県の魅力

〇佐賀県出身の生徒が鹿児島県に住んで初めて分かった佐賀県の魅力とは。
〇佐賀県に祖父母が在住している生徒，両親から聞いた話などを交え，佐賀県の魅力を探る。

②　佐賀県と鹿児島県の県民気質の比較と両県民の魅力

鹿児島県民の県民性は？佐賀県民の県民性は？両県の県民性を比較して，鹿児島県民の魅力，佐賀県民の魅力を考えてみよう。

③　鹿児島県と佐賀県の共通点と新たなパートナーシップ

両県で開催される国体（国スポ）・全障スポなど，鹿児島県と佐賀県での共通する事項を調べてみる。そして，両県がＷｉｎＷｉｎの関係になれるようなパートナーシップやコラボについて考えてみよう。

④　オリジナル修学旅行を計画しよう

〇高校生が，佐賀県の魅力を伝える修学旅行を計画し，実行するプロジェクトを実施する。
〇実施できれば，①. 高校生に地元を客観的にみて，地域資源に気づいてもらい，地元に誇りを持つこと　②. 県外に地域の魅力を発信していくこと　③. 県内の一次産業を盛り上げることの３点に繋がる。
〇現在エールプロジェクト内の事業に一つに修学旅行で鹿児島県・佐賀県両県の相互誘致を行っているが，修学旅行の計画をお互いの県の高校生がプロデュースするのはどうか。

⑤「イクメン白書２０２０」から考える少子化対策

〇積水ハウス株式会社が発表した「イクメン白書２０２０」において，佐賀県が１位，鹿児島県が１９位となった。この背景についての考察。
〇ワークライフバランスを達成するために今，両県に必要な施策は何か提案する。

⑥　車線を減らしても渋滞は大丈夫？佐賀県民の健康増進に向けた取組

〇2024 年の佐賀国スポ・全障スポに向け，ＪＲ佐賀駅北口から国スポメイン会場の県総合運動公園までの市道「三溝線」で，４車線から２車線に減らしつつ，歩道の拡幅を行い，歩道には住民憩いの場を設けるとしている。
〇他方，「SAGATOCO」というウォーキングアプリを開発し，ウォーキング等の運動をポイント化し，貯めたポイントでインセンティブ（景品やサービス）に応募できる取組を始めている。ハード・ソフト両面で，県民を「歩く」ことに仕向ける（⇒健康増進）仕掛けづくり，発想は興味深い。

⑦　佐賀・鹿児島の高校生が選ぶ故郷十景

〇アンケート調査（or インタビュー）をした結果をもとに，「我が校が選ぶ故郷十景」を決定。選抜された佐賀県の景色を鹿児島の高校生に見せて感想をもらう。その感想を佐賀の高校生に紹介し，佐賀の魅力を改めて実感してもらう。
〇両県の国体・国スポホームページや公式ＳＮＳで紹介するとともに，両県を訪れる修学旅行生（中学生）にも，「佐賀（鹿児島）の高校生おすすめの故郷十景」としてパンフレット等として配布。

⑧　佐賀と鹿児島のことわざや風習等の比較

両県のことわざや風習等を比較し，鹿児島にないことわざ等をピックアップ。鹿児島にはない，佐賀県民が大切にしてきた考え方や価値観を明らかにする。鹿児島の高校生が気に入った佐賀のことわざ等を選び，プレゼンで伝えてもよい。